資料６

宇和島市 障がい者支援に関する関係団体等調査
集約結果（報告書）

【調査概要】

・計画策定の基礎資料とすることを目的に、市内の障がい者支援関係団体に、取組の現状やニーズ等についてのご意見をお伺いした。
・実施時期　令和２（2020）年８～９月
・調査方法　郵送配付・郵送回収（ヒアリングシートへの記入依頼）
・回収件数　７団体

【調査結果】

貴団体が日々の障がい者支援活動を行う上で、困っていることはありますか。（例：担い手の減少や高齢化、リーダーの育成、活動場所、資金面のことなど・・・）

回答内容
・担い手の減少、高齢化、リーダーの育成、資金などいずれも困っているがどこも似たようなものかもしれない。 ・ここ数年、新規加入者がないことと、徐々に高齢化が進んでいること。 ・資金の問題。（市より補助金がないと活動ができない。）以前、市より聴覚障害者協会へ補助金があったが、今はなくなったので活動ができない。 ・次世代の若い親は入会するが、活動への参加が少ない。 ・活動場所が継続して使用できるか心配。 ・コロナ禍でオンラインでの当事者参加事業を行う。通信環境や資材（機器）整備など相談先がほしい。 ・会員数の減少及び高齢化。 ・次世代リーダーの育成。（担い手がいない。） ・活動資金不足。 ・担い手の年齢の高齢化。同年代が多いため。 ・ボランティア状態で行っているので、労力、時間の工面が難しいこともあり。当事者、保護者の必要とするものへ手が足りずジレンマがある。 ・専門職だけが支援にあたるとの構図や思い込みが早く、各現場や子どもたちに関わる職種の人は自分のこととして発達支援や子育て支援をとらえてほしいが、上からの発信力が弱すぎる。その分本会への依存が膨らみ重い。仕事としてこれらに関わる関係者は現場のすみずみまで行き届く体制を一早く確立してほしい。

宇和島市は、障がいのある人にとって、どの程度「住みやすいまち」だとお感じになりますか。次の選択肢のうち１つに〇を付けて、そのように回答された理由や今後の課題を、その下の枠内にご記入ください。

住みやすさ	回答内容（理由や今後の課題など）
1　どちらかといえば住みやすいまちである	・都会と比較して生活費が少なくて済む。衣・食・住の中でも、とりわけ住は全般的にゆとりがあると思う。
2　どちらかといえば住みにくいまちである	・私たち聴覚障がい者として大切な問題はコミュニケーション。できれば宇和島市民が手話を覚え、差別のない心安らぐ街にしてほしい。手話言語が私たちろう者の言葉です。 ・子どもの育ちに関わる人すべての偏見と思い込みを変えていく取組がなければ、実は支援体制ができても関わり方が変わらない部分もあり。子どもに直接かかわる人、触れる人は特にその子の存在意義を決定付けるほど影響が大きい。特に就学前、教育、保育、小・中学校の職員は自分たちが社会の基盤づくりに関わっていることを意識してほしい。この大人たちの行動、態度、ことばこそ根本的に見直さないと、目指す方向に行かない。意識がない、または低い人が子どもたちに与える負（－）マイナスの影響はとても大きい。支援者がいかに自己優先的に子どもたちに関わっているか、そこを放置し続けているのではないか。先生や大人がそうであれば、適応しにくい子どもたちは足手まといの対象と位置付けされていく、そんな社会（集団）が生きやすい（住みやすい）はずがない。障がいをもった人が自由に生活を送れる（移動・余暇を含む）ほど、手助け（サポート・場）はない。これを親や家族だけでしろというのは無理。家族がするものだろう、という時点で住みやすくない。
3　どちらともいえない	・無関心の人が多い。講演会やイベントを主催してもほとんど来てもらえない。行政の支援も少ないし、あまり期待できない。ボランティアの充実が大切。 ・田舎で顔の見える関係があり、周囲の理解が得やすい。 ・障がい者が社会参加したり、就労するには環境や社会資源が少ない。 ・バリアフリー化が推進できていない。 ・障がい者差別がある。（学校での教育不足。） ・障がい者問題への啓発が十分でない。 ・視覚障がい者の点字ブロック不足。（一人の外出は安全であるのか。） ・視覚障がい者ガイドヘルパーがいて、頼めば利用できるのは安心である。 ・車椅子の人の外出はどうか。

「宇和島市障がい者計画」は、障がい者福祉に関する市の取組を、様々な分野にわたって定めるものです。次にあげる障がい者福祉の１～８の主な分野について、貴団体の活動にとって「特に重要」と思われる項目の番号を３つまで選んでください。（１～８に当てはまらない場合は９を選んでください。）

番号	分野	回答件数※
1	障がいへの理解と交流の促進	６件
2	権利擁護・差別解消分野	２件
3	保健・医療分野	０件
4	雇用・就労分野	０件
5	地域における生活支援分野	２件
6	自立と社会参加分野	２件
7	療育・保育・教育分野	１件
8	生活環境の整備分野	３件
9	その他	２件

※分野の番号を回答していても、記述欄に回答がない場合がある。

回答分野	区分	回答内容 （団体で進めていこうと思う取組、そのために行政（市）と協働して取り組むこと、または提案など）
１　障がいへの理解と交流の促進	団体で取り組むこと	・啓発や広報、地域共生、多様な交流のために定期的に行っていく。今後もできるだけ続けたい。 ・定例会における１～２に関する勉強と会員相互の啓発。 ・フォトプロジェクト・・・外の人を巻き込む、知ってもらう。 ・いのちの写真展・・・障がい者の暮らしを外に向かって伝える。 ・地域行事等への出店・・・知ってもらう。障がい児・者が家族だけでなく他の人とつながる仕組みづくり。 ・広報や社協だよりにむつみ荘のことを市民に知ってもらえるよう市にお願いをしていく。（定期的にお知らせできないか。） ・「世界自閉症啓発デー」（週間）などの機会に合わせた啓発、発信イベント。 ・地域への発信（マスメディア新聞活用）など。 ・新型コロナウイルス対策で集まりは難しいとなれば、広報等を利用したコラム欄や活動情報発信を継続的に行うなど。

回答分野	区分	回答内容 （団体で進めていこうと思う取組、そのために行政（市）と協働して取り組むこと、または提案など）
1　障がいへの理解と交流の促進	行政と協働して取り組むことや提案	・今のところ協働は全く行われていない。今後は多様なボランティアの充実と行政の支援にかかっていると思う。 ・時の移り変わりにより、制度の見直しや変更もあり得るので、そのような時は適宜情報提供をお願いしたい。 ・私たちろう者にとっては、社会生活に欠かせない最も重要な権利であり、命ともいえるものです。手話言語で暮らせる社会を実現するべきではないか。（宇和島市民が手話のできる街） ・事業の実施や活動メンバーの育成は自助努力で行えるが、広報面の周知協力、市関連施設を会場とした写真展等は協力いただけると市民に広く知ってもらえる。 ・視覚障がい者の方へ広報の音声訳化と録音図書の利用ができることを伝えてほしい。事業の音声訳教室、点字教室、朗読教室のことを伝えてほしい。（利用者を増やしたい。）また、ボランティア事業の手話サークルもお願いしたい。 ・イベントも、行政主体で（協賛でもいい）そこに協力、参加であれば企画、準備等の負担も軽くなり助かる。何より行政が動きを見せることが一般市民への関心を引きやすい。当事者団体だと、慈善事業でお情けください的な見方になりがち。これは共生にはほど遠い。 ・当事者だけ対象のイベントのボランティア（例えば社協であるような）を、枠を外して一般の人と（子どもたちと）自然に交流（一緒に参加）出来るものを企画。

2　権利擁護・差別解消分野	団体で取り組むこと	・定例会における１～２に関する勉強と会員相互の啓発。 ・障害者差別解消法の勉強会。法律に何が書いてあるのか、その理解を念頭に団体として解消に向け取り組む。
	行政と協働して取り組むことや提案	・時の移り変わりにより制度の見直しや変更もあり得るので、そのような時は適宜情報提供をお願いしたい。 ・行政としての啓発活動。（広報・校区だより等での啓発活動） ・人権週間での重点的啓発活動。（標語・ポスターの募集）小・中・高において広く募集する。 ・学校等での講演啓発活動。

回答分野	区分	回答内容 （団体で進めていこうと思う取組、そのために行政（市）と協働して取り組むこと、または提案など）
5　地域における生活支援分野	団体で取り組むこと	・相談支援体制や障がい福祉サービスの充実を機会あるごとに提案している。 ・生活に関わる困りごとに対して、会員は情報収集する。
	行政と協働して取り組むことや提案	・行政の支援をより充実しボランティアや資金の確保に協力してほしい。 ・親（家族）も行政も互いに身内でどうにかするもの、他者の手助けは得られにくい。頼みにくい、頼めない（これは本人の障がい特性への理解や関りの難しさも含む。）もの、と感じている部分が大半を占め、逆にそれが当たり前になってしまっているのでは？欲しい手助けがピンポイントに当てはまる福祉サービスも見つからず、家族でしのいでいることの方が多い気がする。福祉サービスの柔軟性と有効な活用の仕方をもっと分かりやすく示してほしい。示すだけでほったらかしではなく、もう少し先まで丁寧にかかわってほしい。

6　自立と社会参加分野	団体で取り組むこと	・意思疎通支援の充実。 ・文化・スポーツ振興。 ・社会教育の充実。 ・活発な研修旅行及びサークル活動。 ・レクリエーションの開催。
	行政と協働して取り組むことや提案	・意思疎通支援のための機材の充実。（音声文字変換） ・文化イベントにおける意思疎通支援。（市内の機会を増やす。） ・社会教育のための支援は以前よりずいぶん良くなったが、今後は設備等で支援してほしい。ボランティアの参加が必要。 ・活動の支援。（人的・金銭的に）

回答分野	区分	回答内容 （団体で進めていこうと思う取組、そのために行政（市）と協働して取り組むこと、または提案など）
7　療育・保育・教育分野	団体で取り組むこと	・これまで同様に当事者・保護者（支援者）が必要としている情報提供、相談、理解促進（学習会、講演会、交流会等）の継続、強化。 ・他機関との連携強化。 ・ＮＰＯ法人化。 ・一日も早い支援体制（今できることから１つずつでも）確立への協力。
	行政と協働して取り組むことや提案	・ワーキング部会立ち上げ等、具体的な支援方法への模索が始まっていること。また、本会（会員当事者、他要支援の親子）へ寄り添ってもらうことは本当に心より感謝しております。 ・各現場での困り感（支援者の主観だと思うが）の把握。表面的な取り繕いは無しになるような状況調査。これはセンター設立までの間も日一日と理解、支援のない、または行き届かない中、苦しんでいる子どもたち（親）が大勢いるので、待たずにできることは何か考えてほしい。（相談、巡回、支援者研修、現場への介入（誰が？動けるのか？）連携の仕組みなど。）

8　生活環境の整備分野	団体で取り組むこと	・団体が取り組み、解決するための個別、具体的な提案、提言。 ・包括支援センターや福祉課と協力して、福祉避難所を設置できるよう努力する。
	行政と協働して取り組むことや提案	・聞こえない私たちが防災する方法として、字幕や市民が手話ができたら助け合うことで安心して暮らせると思う。市民全員が手話ができるようになることを願っている。 ・検討するのではなく、期限を切ってやってほしい。（いつまでにやる）（前向きにやる） ・防災倉庫や段ボールベットなどを準備してもらいたい。

9　その他	団体で取り組むこと	・一人でも多くの会員を増やす。
	行政と協働して取り組むことや提案	※回答無し

貴団体では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急事態宣言下又はその後の環境下で、活動上困ったことがありますか。あれば具体的に記入してください。

回答内容
・コロナのような場合は、もう個人にはどうしようもないが、それでもいろいろなことが起きてくる。活動は全くできていない。障がい者ワクの支援をもっと増やすべきだし、今後の支援についてももっと説明があると良い。 ・我々みどりの会は都会の様な密集地域ではないので、特別困った状況には至っていない。 ・会員には障がいの重い方が多く、医療的ケアが必要だったり、福祉サービスを利用するなど感染予防が強く求められる。集まることができないため、オンラインでミュージックケアは行っているが、各家庭の通信環境やスマホ等機器により十分に活用してもらうことができない。つながるための仕組みの構築が必要。 ・団体として活動できない。 ・マスクや消毒液、手洗い石鹸などの物品が手に入らなかったこと。 ・視覚障がい者へのマスク対応。アミーゴ会員と視覚障がい者、手話サークルの運営についてはマスクをするのか。 ・団体の飲食について。（昼食をとらなければいけない団体があったため。） ・変化への対応が元々困難なお子さんへの関わりで、かなりストレスを抱えた家族もある様子。 ・今年度一年活動の見通しも立にくいことから、基本的には休会としました。が、この間も困りごとを抱えたまま適切な情報は提供も乏しく相談もできずにいる会員も多いのだろうと推察します。新たに診断がつき、どうしてよいか分からない親御さんからの相談も会員経由で入ってきています。できることは再開も考えてはいますが、役員のそれぞれの本業（職場）への影響と兼ね合いをどうするか悩むところです。

このほか、宇和島市の障がい福祉の取組について、何かご意見がありましたら、自由にご記入ください。

回答内容
・宇和島市だけに限ったものではないと思うが、障がい者福祉についての許認可にとどまっていて、何か困っていてどうすればよいか、という検討があまり行われていない。もっと現場の声を聞いてほしい。 ・宇和島市の行政支援に我々も感謝している。 ・伊達博物館やきさいや広場などで、県外の方が観光に来られた時、受付に手話ができる人がいない時、質問などに手間取って心置きなく申しつけできない。場所ごとに手話通訳の受付（スタッフ）を設置してほしい。 ・中予のボラセンのような支援機関が宇和島でもあれば、活動の情報提供・相談や他団体とつながることがしやすくなると思います。 ・日本一のやさしいまちづくりを行ってください。（子どもも、大人も、高齢者も、男も、女も、障がい者も安心して暮らせるまちづくりを行ってください。） ・子どもたちの支援に関しては、教育分野との連携が不可欠です。担当者だけでなくトップで方向性の共有をする方法は？ ・行政における障がい福祉の立ち位置や（このようなものがうまく言い表せません）、昔の古い考えのまま、行政職員も、市民もイメージしていませんか。進化していることを見えるようにしてほしいです。